SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

興津川上流域の静岡層群：中部支部巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保田, 実 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025513

興津川上流域の静岡層群

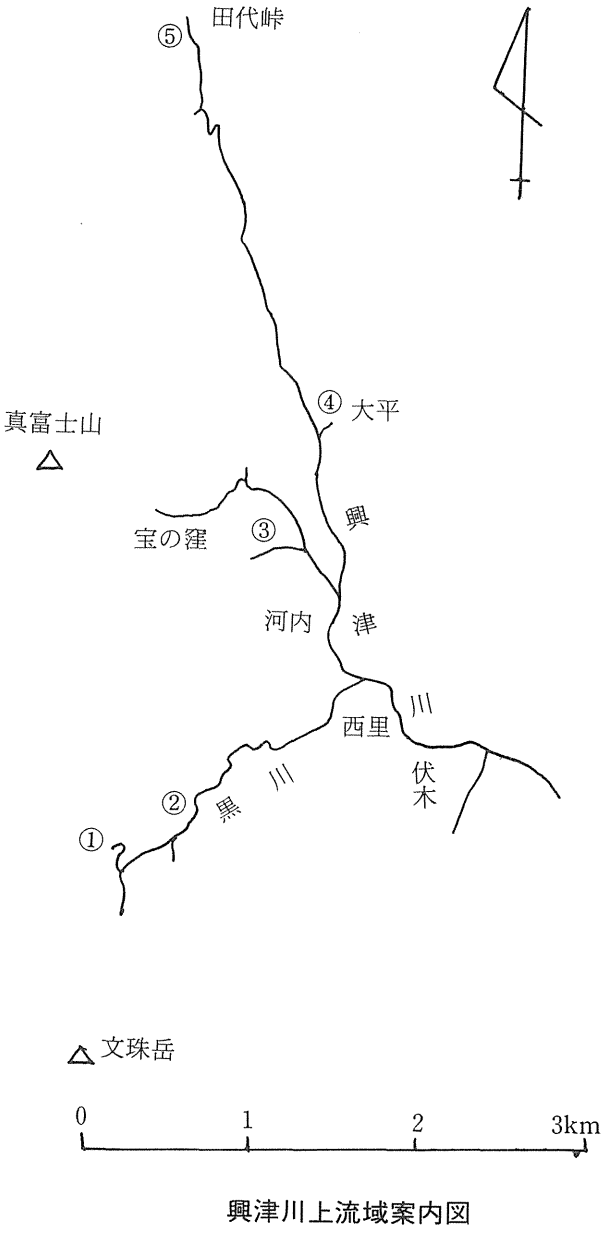
—中部支部巡検会報告—

久保田　実*

1　はじめに

地学会中部支部の巡検が1月15日の成人の日に興津川流域で行われた。コースは「東海自然歩道の地学案内」（地学会発行）にある〝竜爪山穂積神社から田代峠まで〟である。案内役は加藤国雄会員、参加者は23名でした。

当日は朝方冷え込んだものの快晴で巡検日和であった。9時に清水インターチェンジ付近に集合し、案内役紹介、日程説明などがおこなわれ出発した。興津川沿いの伏木付近で数台の車に分乗して、西里から興津川支流の黒川を20分程上がった。



興津川上流域案内図

2　糸魚川—静岡構造線　①

東海自然歩道の分岐点炭焼7号橋より3分程で右側山側に黒灰色の砂岩泥岩の互層が見えてくる。さらに進むと、明るい灰色で2～3 mmの白い結晶が目につく、硬いブロック状の火成岩（粗面岩）となる。この両者の境には、黒色や緑色の断層粘土のすじが幾本もみられ、走向N 40～50°W傾斜20～30°Wで西側に傾斜している。この境界が『糸魚川—静岡構造線』である。左側（西側）の粗面岩を含む竜爪層群が、右側（東側）の砂岩泥岩を含む静岡層群の上にのし上がっている衝上断層（逆断層）となっている。これは強い水平方向の圧縮運動による。青木克顕会員に見せていただいた顕微鏡写真では、粗面岩中に含まれる斜長石中に細かいずれがみられ、圧縮運動が鉱物中にも影響を及ぼしていたことを知った。この地点からは南方向に文珠岳を見通すことができる。文珠岳の東側を『糸魚川—静岡構造線』が通っているという。

*静岡雙葉高校

3　逆転した砂岩泥岩層　②

①より5分程下ると、山側に泥岩とそれより厚い砂岩がリズミカルに重なり合っている露頭がみえてくる。砂岩は暗灰色で硬い。10 cm 程度の層中をよく見ると、みかけ上下部では砂の粒子が細かく、上部では粗くなっているのを観察できた。このような砂岩層の粒子の大きさの変化を級化成層というが、級化成層は下部が粗く上部が細かくなるので、この付近の砂岩泥岩互層は逆転していることになる。付近の沢底にも砂岩泥岩互層の良い露頭がみられた。

4　宝の窪の安産石　③

河内から石沢川を3分程上がると、右手に巨大な石が見えてくる。これが「河内の大石」と呼ばれるもので、高さ 20 m、周囲 60 m もある。この石は灰白色をしており、20～30 cm の褐色や緑色の礫を含む。底部は特に白っぽく珪質である。碑文によると、この大石は石英粗面岩であり、安政元年～二年にかけて起こった大地震と豪雨によって真富士山から泥流と共に流されてきたといわれている。土地の人が安産の神として信仰している為、宝の窪の「安産石」とも呼ばれている。説明によると、付近には他にも4～5個の巨石がみられ、真富士山の中腹にはこの石の残り半分がまだ残っているとのことであった。この大石を背景にして全員の記念写真を撮った。

5　川合野礫岩　④

興津川流域の大平で遅い食事をした。食事場所のワサビ田には、この冬から続いていた渇水の影響で水がなく、付近には火の見やぐらが建っている石など巨石が多数みられた。50 m 程下流の左岸には、層理面がはっきりしない細かい砂の中に 10～15 cm の硬く丸味のある礫が多数入った礫岩の露頭がある。礫の種類は、砂岩、黒色泥岩、チャート、花コウ岩、石英斑岩などで、石英閃緑岩は風化が進んでいた。説明によれば、この礫岩層は川合野礫岩と呼ばれ、興津川東側地域に広く分布するということであった。

6　田代峠衝上断層　⑤

興津川をさらに 20 分程上流にゆくと通行止めとなる。ここに車をおいて、東海自然歩道の田代峠方面の登り口まで歩き、山道に入る。入口付近では川合野礫岩層がみられたが、次第に黒色泥質の凝灰岩や凝灰質砂岩層に変わった。急な坂道を 30 分程歩き、うっすらと汗がにじむ程となった頃、幅の広い涸れ沢に出た。沢の西側には黒灰色の凝灰岩がみられた。沢の下流に礫岩層の露頭があるとの加藤会員の話があり、全員で 100 m 程下った。露頭には、川合野礫岩と凝灰岩がみられ、この2層の間に田代峠衝上断層があるとの説明があった。この断層線は興津川東岸部を走っているという。この沢には見事な模様の氷があり多くの会員が写真におさめた。

山道を登り口までもどり、黒緑色の凝灰岩層を含む泥岩層をしばらく観察した後解散した。

7　おわりに

今回は「糸魚川―静岡構造線」の数少ない露頭を見ることができ大変楽しい巡検会であった。寒い

中コースを案内して下さり資料をととのえて下さった加藤国雄会員に心から感謝する。

参考文献

妻木敏・加藤国雄（1981）・清水市黒川周辺地域の静岡層群・静岡地学 vol. 44

静岡県地学会編（1983）・えんそくの地学

〃　　（1976）・東海自然歩道の地学案内

地学団体研究会静岡支部編（1981）・日曜の地学（13）